

## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	東京医科歯科大学
連携大学名	広島大学、九州歯科大学
事業名	健康長寿に貢献する実践的チーム医療人育成

### ① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<p>チーム医療を実践できる高い技術力をもつ歯科衛生士、歯科技工士を養成する。                      連携大学の全ての学生がチーム医療及び多職種連携のための基礎的知識・技術を修得し、臨床実習においてチーム医療・多職種連携を実践する。                      連携大学の70%以上の教員を期間中に相互派遣し、プログラムの相互支援、研修を行う。                      指導者養成プログラムを構築し、10名以上の履修修了者を輩出する。</p>

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特任教員の雇用: 助教1名</li> <li>・事業担当事務補佐員の雇用: 1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3年生28名</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3・4年生25名</li> <li>・周術期患者の口くう機能・衛生(口くうケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム新規受入れ: 2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3年生28名(継続: 4年生28名)</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3・4年生25名</li> <li>・周術期患者の口くう機能・衛生(口くうケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム新規受入れ: 5名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3年生28名(継続: 4年生28名)</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3・4年生25名</li> <li>・周術期患者の口くう機能・衛生(口くうケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム新規受入れ: 6名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3年生28名(継続: 4年生28名)</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム新規受入れ: 口くう健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム新規受入れ: 口くう保健学科3・4年生25名</li> <li>・周術期患者の口くう機能・衛生(口くうケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム新規受入れ: 6名</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施の中心組織として、運営委員会の設置</li> <li>・事業運営の中核組織として課題解決型高度医療人材養成プログラム事業推進室を設置し、下部組織として事業実施委員会を設置</li> <li>・ホームページ開設</li> <li>・事業実施委員会、運営委員会の実施</li> <li>・教員相互派遣による各大学のカリキュラム調査</li> <li>・連携大学、病院、施設との連絡会及び検討会実施</li> <li>・FD研修の実施</li> <li>・キックオフイベント開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施委員会、運営委員会の実施</li> <li>・連携大学、病院、施設との連絡会及び検討会実施</li> <li>・FD研修の実施</li> <li>・内部評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施委員会、運営委員会の実施</li> <li>・連携大学、病院、施設との連絡会及び検討会実施</li> <li>・サマープログラム開催</li> <li>・FD研修の実施</li> <li>・公開シンポジウム開催</li> <li>・内部評価の実施及び外部評価委員会による外部評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施委員会、運営委員会の実施</li> <li>・連携大学、病院、施設との連絡会及び検討会実施</li> <li>・サマープログラム開催</li> <li>・FD研修の実施</li> <li>・内部評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施委員会、運営委員会の実施</li> <li>・連携大学、病院、施設との連絡会及び検討会実施</li> <li>・サマープログラム開催</li> <li>・FD研修の実施</li> <li>・公開シンポジウム開催</li> <li>・内部評価の実施及び外部評価委員会による外部評価の実施</li> </ul>

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生25名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生28名</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生25名</li> <li>・周術期患者のロクウ機能・衛生(ロクウケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム修了者数：2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生28名</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生25名</li> <li>・周術期患者のロクウ機能・衛生(ロクウケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム修了者数：5名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学附属病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生28名</li> <li>・デイサービス施設・大学病院におけるチーム医療実践プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・歯科技工士による手術支援プログラム修了者数：ロクウ健康科学科3年生20名</li> <li>・回復期病棟での多職種連携実践プログラム修了者数：ロクウ保健学科4年生25名</li> <li>・周術期患者のロクウ機能・衛生(ロクウケア)管理におけるチーム医療指導者養成プログラム修了者数：6名</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討により、プログラム内容の充実が図られる。</li> <li>・教員相互派遣により、各大学における取組を推進する。また、他大学のカリキュラムとの比較検討が可能となる。</li> <li>・教員の本事業への共通理解と推進への意欲が促される。</li> <li>・ホームページ、キックオフイベントにより事業内容が周知される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討により、プログラム内容の充実がはかられる。</li> <li>・連携機関との連絡会及び検討会の実施により、共通理解が促進する。</li> <li>・FD研修の実施により、本事業における連携大学間での相互支援が推進される。</li> <li>・内部評価委員会により、プログラム内容がブラッシュアップされる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討により、プログラム内容の充実がはかられる。</li> <li>・連携機関との連絡会及び検討会の実施により、共通理解が促進する。</li> <li>・FD研修の実施により、本事業における連携大学間での相互支援が推進される。</li> <li>・評価委員会により、プログラム内容がブラッシュアップされる。</li> <li>・サマープログラム及び公開シンポジウムの開催により、本プログラムの取り組みが周知される。</li> <li>・中間評価の報告書を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討により、プログラム内容の充実がはかられる。</li> <li>・連携機関との連絡会及び検討会の実施により、共通理解が促進する。</li> <li>・FD研修の実施により、本事業における連携大学間での相互支援が推進される。</li> <li>・評価委員会により、プログラム内容がブラッシュアップされる。</li> <li>・サマープログラムの開催により、本プログラムの取り組みが周知される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討により、プログラム内容の充実がはかられる。</li> <li>・連携機関との連絡会及び検討会の実施により、共通理解が促進する。</li> <li>・FD研修の実施により、本事業における連携大学間での相互支援が推進される。</li> <li>・評価委員会により、プログラム内容がブラッシュアップされる。</li> <li>・サマープログラム及び公開シンポジウムの開催により、本プログラムの取り組みが周知される。</li> <li>・最終報告書の作成</li> </ul>
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの		・プログラム累積修了者数：65名	・プログラム累積修了者数：160名	・プログラム累積修了者数：258名	・プログラム累積修了者数：357名
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会における検討や、教員相互派遣等を通じて、本プログラムが受講生を受け入れるための土台が形成される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生、教員の多職種連携に対する理解が深まる。</li> <li>・受講生のキャリア形成(チーム医療を実践できる医療人の養成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生、教員の多職種連携に対する理解が深まる。</li> <li>・受講生のキャリア形成(チーム医療を実践できる医療人の養成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生、教員の多職種連携に対する理解が深まる。</li> <li>・受講生のキャリア形成(チーム医療を実践できる医療人の養成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生、教員の多職種連携に対する理解が深まる。</li> <li>・受講生のキャリア形成(チーム医療を実践できる医療人の養成)</li> <li>・他大学や養成機関でも普及可能な教育コンテンツの作成</li> </ul>

### ③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	PDCAサイクルによる工程管理を確実に行うため、工程表に基づき事業を推進する。体系的に教育プログラムが展開できるよう、3大学それぞれに設置する事業実施委員会における自己点検評価、内部評価委員会における内部評価及び外部評価委員による評価を実施する。キャリアパス形成については、学年進行に応じた継続性のある医療人材養成プログラムとなるよう、対象学年外である1年及び2年生についても本教育プログラムに即した編成となるよう事業実施委員会が中心となって検討を行うこととする。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	学部長が室長（総括責任者）である東京医科歯科大学歯学部課題解決型高度医療人材養成プログラム事業推進室を設置し、事業を推進する。連携機関である東京医科歯科大学歯学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、広島大学病院、通所介護事業所光清苑、医療法人共和会小倉リハビリテーション病院の担当者の事業実施委員会及び運営委員会への参加、及び連絡機関との連絡会・検討会の開催によって連携機関の意見を取り入れたプログラム設計を行う。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	事業期間終了後も事業を継続していくために、事業期間中、連携機関との協力体制を構築するとともに、3大学間の連携を密にすることによりチーム医療、多職種連携を遂行可能な医療人を育成するプログラムを構築する。DVD、E-learning、実習書などの教材作成を行うことにより、他大学においても活用・普及できるプログラムの構築を目指す。本事業の活動については、平成28年度及び平成30年度の公開シンポジウム開催、ホームページ等を活用し広く情報発信を行う予定である。

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
歯科衛生士養成、歯科技工士養成で行われているカリキュラムが、更に過密化すると考えられるため、大学の学生へのフォローについても検討し、明確にされることが望ましい。	履修時間の増加を最小限とどめ、授業の開講時期や実習の実施時期の工夫、内容のスリム化、授業計画の見直し等を図る。特にチーム医療の実践に関わる実習と講義については、理論から実践への統合が有機的に発展することが可能となるカリキュラム編成とする。
広島大学の歯科衛生士学生向けのプログラムについては、現状で学生に対して行っている講義演習と、本プログラムの差、新規に追加しようとしている部分を明確にされることが望ましい。	既存の講義演習内容に対して本プログラムでは、特別養護老人ホームの職員（介護福祉士）による講義を新規に行うとともに、当該施設での実習時間も90分×8回と倍増させることで、チーム医療をより実践的な形で学ぶこととしている。
予算要求項目にロクウ機能管理シミュレーターとあるが、東京医科歯科大学では、既にデモンストレーションを行っているとの記載があり、購入の必要性を明確にすべきである。	申請時点でデモンストレーションに用いたロクウ機能シミュレーターについては、4年生（30名）の実習に際して、発売前の試作品の段階のもの5台のみ借用し実習を行った。そのため、1台につき5名の学生が1回のみの実習を行ったため、十分な実習時間を確保できなかったのが現状であった。附属病院入院患者等全身リスクを有する有病者に対するロクウケアの実践のためには、事前の十分な反復トレーニングが必須であり、実習時間の十分な確保と臨床実習に耐える技術の修得のために、新規で購入を予定している。
キャリア教育・キャリア支援について、大学としての具体的な体制が示されておらず、歯科衛生学生と歯科技工学生の進路相談やサポート、実習指導者がプログラムに参加できるようにするためのサポートをどのように行うのが不明である。	キャリア教育・キャリア支援については、チーム医療を実践している歯科衛生士・歯科技工士を外部講師とする特別講義やキャリアガイダンスの実施などの取り組みをこれまでも実施しているが、今後更に更に積極的に行う予定である。進路相談については、教員による学生面談の充実を図るなど、積極的な学生に対するキャリア支援を既に行っているが、今後も充実を図る予定である。実習指導者養成プログラムについては、DVD、E-learningによる学習の充実化を行うとともに、受講生の就業時間を考慮した実習時間の設定、相談に応じるチューターの配置など、受講生のニーズに即した対応を行う予定である。
大学間でプログラムを共有し、継続して実施していくためには、各大学で実際の教育を担当する歯科衛生士、歯科技工士の教員が担当者として参加が必要であるため、体制の充実を期待する。	運営委員会及び事業実施委員会については、歯科衛生士12名、歯科技工士1名の教員が参加している。教員相互派遣についても歯科衛生士及び歯科技工士の教員が積極的に参加することにより、大学間の活発な情報共有及び意見交換、相互支援、研修を行う予定である。
外部評価委員などの名前の記載がないが、適切な評価者を選定されることを期待する。	今年度中に外部評価委員を選定し、当該委員会による事業の評価を実施し、その結果に基づき、プログラムのブラッシュアップ等を図る予定である。